

ミズヒマワリパトロール



ミズヒマワリ



十三高槻線下流右岸の砂州にて

9月17日、毎年恒例のミズヒマワリパトロールを、芥川倶楽部、たかつき環境市民会議、国交省、高槻市等、市民と行政の共同で、芥川大橋下流域で実施しました。総勢10名の参加で、右岸・左岸の2班に分かれて堤防上及び高水敷をパトロール。今回初めて川の中を歩き、目視、双眼鏡でミズヒマワリの繁殖を確認しました。

パトロールの結果、37か所で繁殖を確認できました。特に府道14号線（十三高槻線）鉄橋から新幹線鉄橋の間は30か所にわたり大小様々なミズヒマワリの繁殖が見られました。

新幹線鉄橋右岸の閉鎖水路内のミズヒマワリの繁殖状況は、昨年度国交省の駆除事業による効果で、繁殖勢力の減少も見受けられました。この流域は国土交通省の駆除管轄範囲であり、淀川河川事務所の課長や高槻出張所の所長も参加して現在の繁殖状況を確認していただきました。今後もパトロールを通し駆除事業に繋がっていただきたいと思います。また、市民レベルで協力できる所は共同で駆除に取り組んでまいります。



胴長靴を履き、川の中を歩いて点検

あなたと自然が触れ合える芥川の情報誌

芥川水辺だより



Vol.37
2020年
秋号



芥川上流部 復旧への取組み

被害木を整理して植林の準備が進む斜面(R2.7)



芥川上流部の沿川の山腹では平成30年9月の台風21号により広範囲に倒木等の被害が発生しましたが、その影響は今も続いています。本年7月の大雨では、土砂崩れや倒木による道路の通行止めや倒木の流出による芥川等の河積阻害といった被害が相次ぎました。

山の斜面の風倒木については、芥川上流の出灰川と支流の田能川の沿川にも広がっており、大阪府、高槻市、京都府、京都市と各森林組合により、倒木の撤去と撤去後の斜面に植林する事業が続いています。森が元の形に戻るまでには相当の年月が必要となりますが、今後も関係機関の連携による復旧作業が進み、芥川の健全な流れが回復、維持されるよう期待したいと思います。



事前授業



川の授業



バラエティ豊かな芥川の魚たち

8月25日 9月15日

水辺の楽校を開校しました！

水辺の楽校は、子ども達に身近な水辺で魚とり等を行い、地域の生物環境を学ぶとともに、河川防災学習により、安全に楽しく川に親しんでもらうプログラムで、関係する諸団体等と連携して茨木土木事務所が実施しています。今年度は、コロナ禍の影響もあり、実施が危ぶまれましたが、8月25日に真上小学校4年生84名、9月15日に南平台小学校3年生65名を対象に水辺の楽校（川の授業）を開校しました。

今年度も安全に配慮しながら、子ども達一人一人が、たも網を持って川へ入り、暑さも時間も忘れるほど夢中になって、魚や水生昆虫をとりました。「まだ魚をとりたい！」との声が多く聞かれる中、とった魚や水生昆虫について、あくあびあ芥川の花崎先生から分かりやすい説明があり、子ども達も熱心に耳を傾けていました。ムギツクやオイカワをはじめ、たくさんの魚や昆虫たちと触れ合えて、子ども達は大満足の半日だったようです。

令和2年度定例総会を開催しました！

今年度も高槻市総合センターにて定例総会が7月4日に開催されました。
会場ではソーシャルディスタンスに配慮しながら、9団体・37名の参加となりました。



総会の議案は令和元年度の活動報告・決算及び会計報告、令和2年度の活動計画案・予算案が審議され承認、また役員改選も審議され再選で承認されました。

今年度の役員体制は以下のとおりです。

- 代表：田口圭介（NPO芥川倶楽部）
- 副代表：千田憲二郎（パナソニック松愛会高槻支部）
- 副代表：山本忠雄（NPO芥川倶楽部）
- 会計：山崎栄子（NPO芥川倶楽部）
- 監事：中川修一

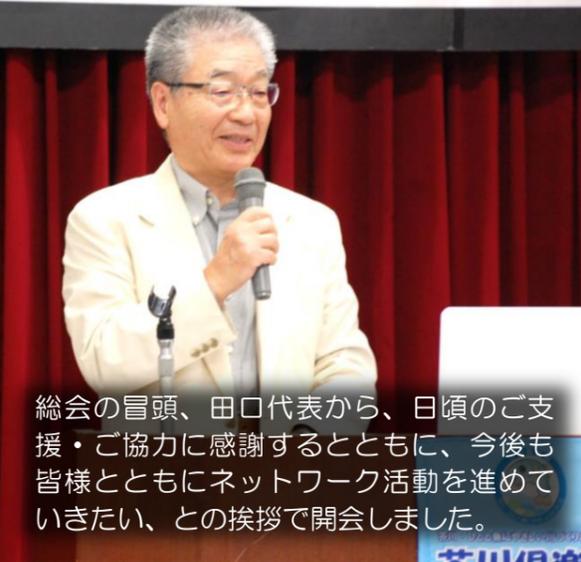
アユの遡上調査



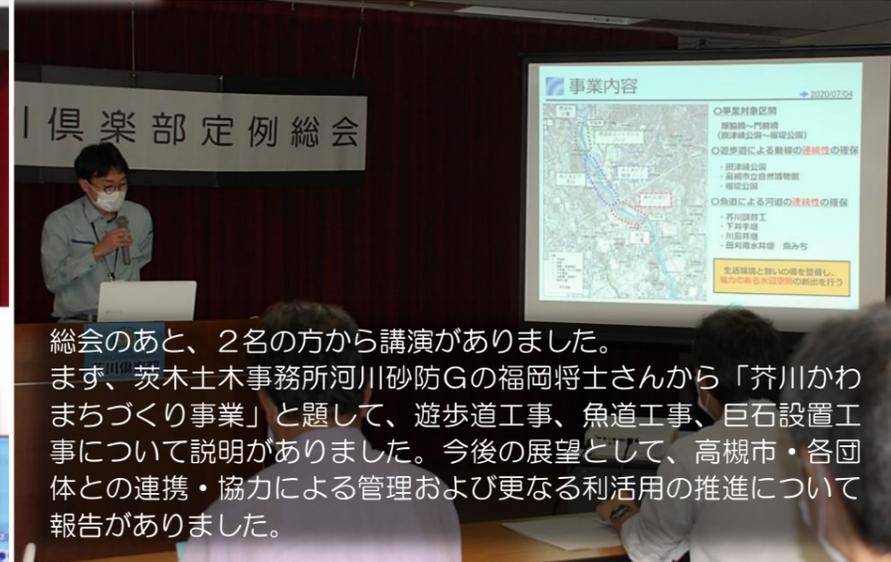
芥川の天然アユの遡上調査は今年で9回目となりました。今回の調査結果では、確認数が約470尾、推定遡上数が約1700尾とこれまでで最小でした。これは新型コロナウイルス対策で調査開始が昨年より一か月以上遅れの6月1日だったことと、雨が多くて7月に入ってからはずか3日しか調査できなかったことが大きな原因と考えられます。

上流部では大きく成長したアユが確認されています。来年の春には芥川生まれのアユがたくさん帰ってくることを期待するとともに、新型コロナの流行が収まって遡上調査が例年通り行えることを願っています。

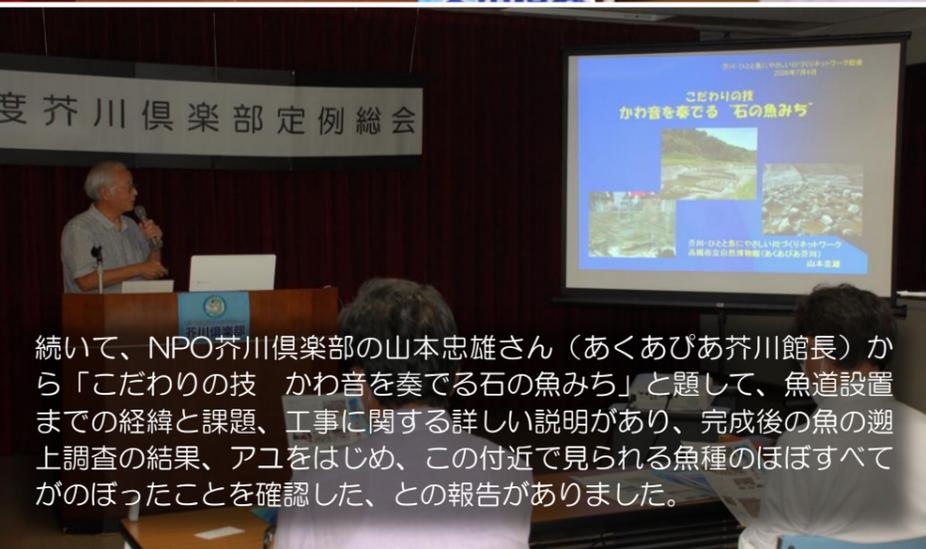
調査地点の増水時の様子(R2.7)



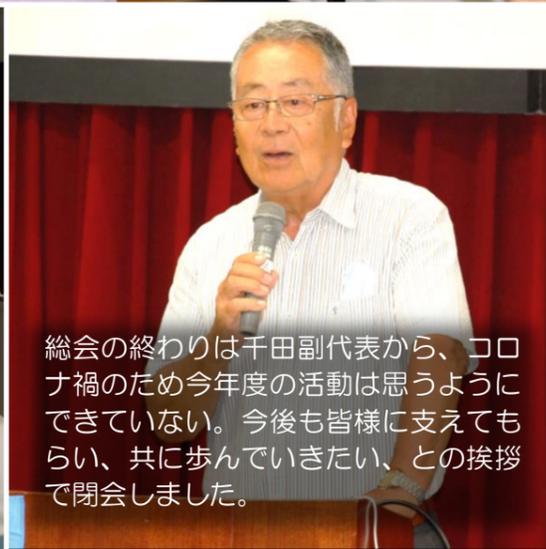
総会の冒頭、田口代表から、日頃のご支援・ご協力に感謝するとともに、今後も皆様とともにネットワーク活動を進めていきたい、との挨拶で開会しました。



総会のあと、2名の方から講演がありました。まず、茨木土木事務所河川砂防Gの福岡将士さんから「芥川かわまちづくり事業」と題して、遊歩道工事、魚道工事、巨石設置工事について説明がありました。今後の展望として、高槻市・各団体との連携・協力による管理および更なる利活用の推進について報告がありました。



続いて、NPO芥川倶楽部の山本忠雄さん（あくあぴあ芥川館長）から「こだわりの技 かわ音を奏でる石の魚みち」と題して、魚道設置までの経緯と課題、工事に関する詳しい説明があり、完成後の魚の遡上調査の結果、アユをはじめ、この付近で見られる魚種のほぼすべての確認した、との報告がありました。



総会の終わりは千田副代表から、コロナ禍のため今年度の活動は思うようできていない。今後も皆様に支えてもらい、共に歩いていきたい、との挨拶で閉会しました。

唐崎ワンドの魚と貝

芥川倶楽部では、2013年から毎年春に、唐崎ワンドで魚や貝の観察会を淀川河川事務所の協力を得て開催してきましたが、今年はコロナ感染防止の意味からイベントは中止としました。

これまでの観察では、魚ではフナ仲間、ニゴイ仲間、モツゴ、ドジョウ、カダヤシ、タウナギ、コウライモロコ、ブルーギルが比較的に採取できました。ワンドは本流が増水して冠水した時に、本流の生物も入ってきますので、冠水頻度が低いとワンド内の生きものに変化が起きにくいと考えられます。今年6月に見学させてもらった芥川左岸の新しいワンド（12号ワンド）では冠水した後でしたので、ナマズ、タモロコ、カネヒラも確認できました。あまり入ってほしくない特定外来種のブラックバスの稚魚も多数見つかりましたが、貝類では毎回採取されるのがヒメタニシとイシガイです。たまにドブガイ、シジミの仲間、カワナガの仲間が見つかります。カネヒラはタナゴの仲間では産卵は二枚貝のイシガイなどを利用すると言われていいますから、二枚貝もワンドには欠かせない生きものと言えます。冠水頻度が低いとワンドに泥も溜まりやすく、ヘドロの蓄積が進みます。こんなワンドでは二枚貝は住みづらいので、タナゴも増えないこととなります。

来年はコロナやヘドロの心配もなく、思い切り子どもたちと唐崎ワンドで歓声を上げたいと思っています。



航空写真の出典：国土地理院